普及活動情勢報告（平成２１年８月分）

須崎農業振興センター農業改良普及課

１情勢報告

①平成21年度第2回大野見地区営農協議会高品質安定生産推進部会が開催されました（7月23日）。

それぞれの担当が情報を出し合い、共有しました。

大野見地区の園芸振興のため、ＪＡ四万十と振興センターの実務者（又は職員）が集まり、現地実証ほの見学と情報共有を行いました。

当日は現地に集合し、大野見地区の雨よけシシトウにおける黒枯病対策及び天敵による害虫防除試験区と、露地シシトウにおけるＭＢ代替資材の実証試験区とを見学し、担当者から説明を受けました。参加者は熱心に質問をしたり、試験区に近づいて熱心に観察したりしていました。

その後は中土佐町庁舎で４～7 月までの活動実績や日程調整などの情報共有を行いました。

これからも日常的に関係機関が協力して活動し、4ヶ月毎に進捗状況の確認を行い、計画的に業務を進めていきます。次回の高品質安定生産部会は11月に開催される予定です。

②ＪＡ土佐くろしおミョウガ部会が「花蕾腐敗対策会議」を開催しました。

７月２７日と２９日、ＪＡ土佐くろしおの大間・浦ノ内・上ノ加江の各集出荷場においてミョウガの花蕾腐敗対策会議を開催しました。これは、ミョウガの本格的な需要期の夏に、高温によって発生が心配される花蕾の腐敗による“市場事故”を未然に防ぐために行いました。

会では販売課から生産者に対して、出荷場の当日の検品で見つかった腐敗の現状を確認してもらい品温管理と選果選別の徹底を強く喚起しました。振興センターからは、花蕾腐敗の原因を説明し栽培と出荷調整における対策を周知しました。

現在取り組んでいる様々な対策をＪＡと検証し、花蕾腐敗対策をより高度に組み立てこれを普及します。

③津野町直販所の生産者を対象に勉強会を開催しました。

勉強会の様子

８月５日と２１日の二日間、津野町西庁とＪＡくろしお葉山支所で津野町内の直販所に出荷する生産者を対象とした勉強会を行いました。

この勉強会は、地域アクションプラン「№３２拠点ビジネス推進」の一環として実施したものです。当日は、売れる商品作り、販売額のアップを目指してサンシャインのバイヤーによる講演や、津野町アドバイザーから長く出荷できる作付け計画の工夫などについて説明がありました。振興センターからは、秋野菜に多い害虫や農薬の使い方についての説明を行い、安全安心に配慮が出来ているかどうかを生産者自ら振り返るために、直販所版安全安心点検シートのチェックも行ってもらいました。

長時間の勉強会となりましたが、出席者全員が最後まで熱心に話を聞いていました。振興センターは、今後も津野町の農家の所得向上のために直販所活動を支援していくと共に、安全安心な商品作りについて指導を続けていきます。

④芳生野百石営農生産組合の営農計画ができました。

防除作業

7月29日総会が開催され、営農計画が決まりました。ハウスを導入して、米ナス中心の営農に取り組む内容です。

着実に実践していくために、役員会での協議（8/10）等の他に、ショウガのネット張りや、アジサイの出荷調整（8/5）、水稲防除（8/13打合せ会、8/17作業）などの作業の実施を支援しました。

今後も、運営面を含めて、作業の実施等を支援していきます。

⑤ 高設栽培イチゴで新しい土壌消毒技術の実演会を開催しました（７月３１日）。

薬剤の処理法の説明を聞く部会員

ＪＡ土佐くろしおイチゴ部会では高設栽培のベッド培地の土壌消毒に、クロルピクリン錠剤が主として使用されていますが、①一度に処理できる面積が限られること。②作が終了する高温・多湿時期なので、処理作業中に錠剤が溶ける時があり、危険。③処理コストがやや高いとうった欠点があることから、省力的で安全な処理薬剤が求められていました。

そこで、ＪＡ担当、薬剤メーカーと相談し、新規薬剤として「クロピクフロー」による処理方法の実演会を部会で開催して、作業性・安全性等を確認してもらいました。参加者の声は、「ハウス外で処理できるので、危険性が少ない。新たに液肥混入機が必要だが、薬剤コストが低く、処理労力が１／３程度になり、処理コストは３年以内で回収できる。このため、液肥混入機は、部会で購入し、共同利用したらどうか？」等の意見や質問が多く出ました。

今後、農業振興センターは、関係機関と連携し、実演会に参加していない農家への実演会の情報を提供し、効果の確認を行っていきます。

⑥今年もユズの産地つくり講演会を開催し拡大に取り組んでいます（８月１日）。

講演会の風景

ＪＡ津野山ユズ部会では、JA馬路村をパートナーとしたユズ産地つくりが２年目を迎えています。

本年も昨年に引き続き、ユズ振興の気運を高めるために、JA 馬路村の協力を得、東谷組合長による「ユズ産地つくり講演会」を開催しました。本年は、兼業農家層の掘り起こしをねらい、休日に開催し、120 名近くの参加者がありました。部員以外の参加者も多く、ユズ栽培への関心の高さが窺えます。

今後、振興センターでは、講演会の開催が産地の拡大へと繋がるよう、部会や関係機関と連携し支援していきます。

⑦ JA土佐くろしお「農家支援会議」で経営再建農家ごとの改善方向が検討されました（７月３０日）。

農家支援会議

JA土佐くろしお「農家支援会議」で、経営再建農家の過去実績や債務状況、課題など出し合いながら、おおよその改善方向について検討されました。

前回6月30日の「農家支援会議」で保留としていた農家について今回再検討され、対象農家13戸の支援内容や目標が了承されました。

今後は、順次農家面談を行い、課題と目標の共有をして改善に取り組んでいきます。また、農家ごとに進捗管理ができるよう、ﾁｰﾑ活動が円滑に運営されるよう支援していきます。

⑧ JA土佐くろしお「農家支援会議」メンバーの経営再建能力向上研修が開催されました（８月４日）。

JA土佐くろしお「農家支援会議」ﾒﾝﾊﾞｰで、「農家に受け入れられる支援者」になるためのﾏﾅｰとｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ能力を高めるための研修会が開催されました。

農家との日頃の接し方を振り返りながら、特に経営再建農家と今後接していく時のﾎﾟｲﾝﾄについて、新発見した人有り、再確認した人有りで有意義な研修となりました。

今後は、ﾁｰﾑ活動していくなかで、ﾎﾟｲﾝﾄを踏まえているか確認しながら進めれるよう支援していきます。

2　今後の普及活動の動き

須崎農業振興センター農業改良普及課
（連絡先：０８８９－４２－３２５５）

時期	タイトル	内容	備考
8月24日	JA津野山ショウガ部会見地検討会	今後の栽培管理について	
8月25日	JA津野山葉ワサビ講習会	金印青果、園芸連等を交え流通･販売、生産計画等の協議	
9月4日	浦の内地区丸浦出荷組合現地検討会	ポンカンの今後の栽培管理について	
9月7～8日	市場とのハナニラの情報交換会	大阪中央青果、京都青果での品質･需要動向調査	
9月10日	JA四万十大野見ショウガ現地検討会	今後の栽培管理について	
		、	